令和３年度登録販売者試験問題

実 施 日 ： 令和３年８月２９日（日）
試験時間 ： １２：００～１４：００
内　　容 ： 医薬品に共通する特性と基本的な知識（２０問）
主な医薬品とその作用（４０問）

◎　問題用紙は、指示があるまで開かないでください。

【注意事項】

1　試験時間中は発言してはいけません。質問など用があるときは、だまって手を挙げて試験監督者の指示に従ってください。
2　携帯電話などの通信機器は、必ず電源を切っておいてください。
3　不正行為は絶対にしないでください。万一、発見した場合は、失格者として退場していただきます。
4　受験票は机に貼ってある受験番号を記載した札の横に置いてください。
5　受験票、鉛筆またはシャープペンシル、消しゴム、時計以外のものは机の上に置かないでください。
6　試験開始および試験終了は試験監督者の指示に従ってください。
7　試験が始まったら、解答用紙に受験番号および受験者氏名を忘れずに記入してから始めてください。
8　試験問題は、「医薬品に共通する特性と基本的な知識」１５ページ、「主な医薬品とその作用」２５ページの合計４０ページです。
　試験開始後、落丁がないことを確認してください。
9　各問題の正しい答えは一つしかないので、最も適当と思った答えを一つ選び、解答用紙に記入してください。
10　答えは丁寧に、はっきりと記載してください。また、答えを修正した場合は、必ず消しゴムであとが残らないよう完全に消してください。答えが判別できない場合は、不正解となるので注意してください。
11　問題用紙は、試験時間終了後持ち帰ることができます。
12　この試験における医薬品の名称および成分名は、厚生労働省作成の「試験問題の作成に関する手引き（平成３０年３月）」に基づいています。
13　試験問題文中の「医薬品医療機器等法」は、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の略称です。

福　井　県

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問１

医薬品の本質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　医薬品は、効能効果、用法用量、副作用等の必要な情報が適切に伝達されることを通じて、購入者が適切に使用することにより、初めてその役割を十分に発揮するものである。

b　医薬品は、市販後にも、その安全性の確認が行われる仕組みとなっているが、有効性については市販前に十分確認されているため、市販後に確認は行われない。

c　医薬品は、人の疾病の治療に使用されるものであり、予防のためには使用されない。

d　医薬品が人体に及ぼす作用は、複雑、かつ多岐に渡っており、そのすべては解明されていない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問２

医薬品の効果とリスク評価に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　「無作用量」とは、薬物の効果が発現し、有害反応が発現しない最大の投与量のことである。

ｂ　動物実験により求められる５０％致死量（LD_{50}）は、薬物の毒性の指標の一つとして用いられる。

ｃ　投与量が少量であれば、長期投与された場合でも、慢性的な毒性が発現することはない。

ｄ　医薬品の効果とリスクは、薬物曝露時間と曝露量との積で表現される用量－反応関係に基づいて評価される。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

問３

医薬品のリスク評価に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　新規に開発される医薬品のリスク評価は、医薬品開発の国際的な標準化（ハーモナイゼーション）制定の流れのなかで実施されるため、医薬品は食品と同等の安全性基準が要求されている。

ｂ　医薬品に対しては、製造販売後の調査および試験の実施基準として、Good Laboratory Practice（ＧＬＰ）が制定されている。

ｃ　ヒトを対象とした臨床試験における効果と安全性の評価基準には、国際的にGood Vigilance Practice（ＧＶＰ）が制定されている。

ｄ　動物実験で医薬品の安全性が確認されると、ヒトを対象とした臨床試験が行われる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問４

健康食品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　「栄養機能食品」については、各種ビタミン、アミノ酸に対して「栄養機能の表示」ができる。

b　「特定保健用食品」は、「特定の保健機能の表示」が許可されている。

c　「機能性表示食品」は、疾病に罹(り)患していない者の疾病リスクの低減を図る旨を表示することができる。

d　医薬品を扱う者は、いわゆる健康食品は法的にも、また安全性や効果を担保する科学的データの面でも医薬品とは異なるものであることを認識し、消費者に指導・説明を行わなくてはならない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問５

医薬品の副作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　世界保健機関（WHO）の定義によれば、医薬品の副作用とは、「疾病の予防、診断、治療のため、または身体の機能を正常化するために、人に通常用いられる量で発現する医薬品の有害かつ意図しない反応」とされている。

b　十分注意して医薬品を適正に使用した場合であっても、副作用が生じることがある。

c　複数の疾病を有する人の場合、ある疾病に対して使用された医薬品の作用により、その人の別の疾病の症状が悪化することはない。

d　副作用の中には、直ちに明確な自覚症状として現れないものがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問６

免疫およびアレルギーに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　医薬品のアレルギーは、内服薬では引き起こされるが、外用薬では引き起こされない。
b　アレルゲンとなり得る医薬品の添加物として、黄色４号（タートラジン）、カゼイン、亜硫酸塩（亜硫酸ナトリウム、ピロ硫酸カリウム等）が知られている。
c　アレルギーには遺伝的な要素もあり、近い親族にアレルギー体質の人がいる場合には、注意が必要である。
d　通常の免疫反応の場合、炎症やそれに伴って発生する痛み、発熱等は、人体にとって有害なものを体内から排除するための必要な過程である。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問７

医薬品の適正使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　一般用医薬品の乱用としては、本来の目的以外の意図で、定められた用量を意図的に超えて服用すること、みだりに他の医薬品や酒類等と一緒に摂取すること、等が挙げられる。
b　一般用医薬品には習慣性・依存性がある成分を含んでいるものがあり、そうした医薬品がしばしば乱用されることがある。
c　薬物依存は、一度形成されても、その使用をやめれば容易に離脱することができる。
d　医薬品の販売等に従事する専門家は、必要以上の大量購入や頻回購入を試みる者に対して、積極的に事情を尋ねる等の対応を図ることが望ましい。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問８

他の医薬品との相互作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　相互作用は、医薬品が吸収、代謝、分布または排泄（せつ）される過程で起こるものであり、医薬品が薬理作用をもたらす部位においては起こらない。

b　一般用医薬品のかぜ薬とアレルギー用薬とでは、成分や作用が重複することはないので、これらの併用は問題ない。

c　相互作用や副作用のリスクを減らす観点から、緩和を図りたい症状が明確である場合には、なるべくその症状に合った成分のみが配合された医薬品が選択されることが望ましい。

d　医療機関・薬局から交付された薬剤を使用している場合には、一般用医薬品との併用について、診療を行った医師もしくは歯科医師または調剤した薬剤師に相談がなされる必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問９

医薬品と食品の相互作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　食品には、医薬品の成分と同じ物質が含まれているものがあり、それらを含む医薬品と一緒に服用すると、過剰摂取となる場合がある。

b　酒類をよく摂取すると、肝臓の代謝機能が高まることが多く、代謝によって産生する物質が人体に悪影響を及ぼす医薬品の場合は、副作用が現れやすくなる。

c　医薬品的な効能効果が標榜（ぼう）または暗示されていなければ、食品（ハーブ等）として流通可能な生薬成分があるが、これが医薬品と相互作用を生じる場合がある。

d　外用薬であれば、食品の摂取によって、その作用や代謝が影響を受ける可能性はない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問１０

小児等への医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　医薬品の使用上の注意において、おおよその目安として、乳児は１歳未満、幼児は７歳未満、小児は１５歳未満との年齢区分が用いられている。

b　一般に乳幼児は、容態が変化した場合に、自分の体調を適切に伝えることが難しいため、医薬品を使用した後は、保護者等が乳幼児の状態をよく観察することが重要である。

c　小児は成人と比べて、肝臓や腎臓の機能が未発達な一方で、血液脳関門が発達しているため、中枢神経系に影響を与える医薬品で副作用を起こしにくい。

d　医薬品の販売に従事する専門家においては、保護者等に対して、小児用の用法用量が定められていない医薬品については、成人用の医薬品の量の３分の１を目安に減らして小児へ与えるように説明すべきである。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問１１

高齢者への医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　医薬品の使用上の注意においては、おおよその目安として７５歳以上を「高齢者」としている。

b　高齢者は、喉の筋肉が衰えて飲食物を飲み込む力が弱まっている（嚥（えん）下障害）場合があるので、内服薬を使用する際に喉に詰まらせやすい。

c　基礎体力や生理機能の衰えの度合いは、年齢と相関するため、副作用の生じるリスクは年齢のみで判断できる。

d　高齢者は、医薬品の取り違えや飲み忘れを起こしやすいなどの傾向があり、家族等の理解や協力も含めた配慮が重要となることがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問１２

妊婦または妊娠していると思われる女性および母乳を与える女性（授乳婦）への医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　妊娠の有無やその可能性については、購入者側にとって他人に知られたくない場合もあることから、一般用医薬品の販売等において専門家が情報提供や相談対応を行う際には、十分配慮することが必要である。

b　ビタミンＡを含有する医薬品は、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取しても、胎児に先天異常を起こす危険性は低いとされている。

c　胎盤には、栄養補給のために胎児と母体の血液を循環させる仕組み（血液−胎盤関門）があるため、母体が医薬品を使用した場合には、医薬品の成分も容易に胎児に移行される。

d　乳汁中に移行することが知られている医薬品の中には、通常の使用の範囲では具体的な悪影響が判明していないものもある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問１３

プラセボ効果に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　医薬品を使用したときにもたらされる反応や変化には、薬理作用によるもののほか、プラセボ効果によるものも含まれている。

b　プラセボ効果の発現には、医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待（暗示効果）は関与していないと考えられている。

c　プラセボ効果は、不確実ではあるが、望ましい反応や効果をもたらすことがあるため、それを目的とした医薬品の使用が推奨される。

d　プラセボ効果は、主観的な変化のみで、客観的に測定可能な変化として現れることはない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問１４

医薬品の品質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　医薬品は、高温や多湿によって品質の劣化を起こしやすいものが多いが、光（紫外線）によって品質の劣化を引き起こすことはない。

b　医薬品の品質が劣化した場合、医薬品の効き目が低下することがあるが、人体に好ましくない作用をもたらす物質が生じることはない。

c　医薬品は、適切な保管・陳列がなされていれば、経時変化による品質の劣化が起こることはない。

d　医薬品が保管・陳列される場所は、清潔性が保たれるとともに、その品質が十分保持される環境となるよう留意される必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	誤	正

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問１５

一般用医薬品の選択およびセルフメディケーションに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　一般用医薬品の販売等に従事する専門家においては、医薬品の使用によらない対処を勧めることが適切な場合があることにも留意する必要がある。

b　症状が重いとき（例えば、高熱や激しい腹痛等）に、一般用医薬品を使用することは、一般用医薬品の役割にかんがみて、適切な対処とはいえない。

c　一般用医薬品を一定期間もしくは一定回数使用しても症状の改善がみられない場合、医療機関の受診勧奨をする必要がある。

d　一般用医薬品は人体に対する作用が緩和なため、乳幼児や妊婦等では、通常の成人の場合に比べ、対処可能な範囲が広がる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問１６

一般用医薬品の販売時のコミュニケーションに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　医薬品の販売に従事する専門家からの情報提供は、専門用語を使って説明するよう努める必要がある。
b　購入者が医薬品を使用する本人で、かつ、現に症状等がある場合には、その人の状態や様子全般から得られる情報も、状況把握につながる重要な手がかりとなる。
c　家庭における常備薬として購入される場合、すぐには使用されないため、情報提供は不要である。
d　医薬品の適正使用のために必要な情報は、基本的に添付文書や製品表示に記載されているので、購入者側の個々の状況に応じた説明等は避け、購入者に熟読を促すのがよい。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問１７

一般用医薬品の販売等に従事する専門家が、購入者から確認しておきたい基本的なポイントに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　何のためにその医薬品を購入しようとしているか（購入者側のニーズ、購入の動機）。
b　その医薬品を使用するのは情報提供を受けている当人か、またはその家族等が想定されるか。
c　その医薬品を使用する人が医療機関で治療を受けていないか。
d　その医薬品を使用する人が過去にアレルギーや医薬品による副作用等の経験があるか。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問１８

サリドマイドおよびサリドマイド訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　妊娠している女性が、滋養強壮保健薬として販売されたサリドマイド製剤を使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の先天異常（サリドマイド胎芽症）が発生した。

b　１９６１年１１月、西ドイツ（当時）のレンツ博士がサリドマイド製剤の催奇形性について警告を発し、日本では、同年中に速やかに販売停止および回収措置が行われた。

c　サリドマイド訴訟は、日本では、国および製薬企業を被告として提訴され、その後に和解が成立した損害賠償訴訟である。

d　この薬害事件をきっかけとして、ＷＨＯ加盟国を中心に市販後の副作用情報の収集の重要性が改めて認識され、各国における副作用情報の収集体制の整備が図られた。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問１９

スモンおよびスモン訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　スモン訴訟とは、解熱鎮痛剤として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症に罹(り)患したことに対する損害賠償訴訟である。

b　キノホルム製剤は、１９５８年頃から消化器症状を伴う特異な神経症状が報告されるようになったが、日本では１９７０年に販売が停止された。

c　訴訟の被告である国は、スモン患者の早期救済のためには、和解による解決が望ましいとの基本方針に立ったが、現在も裁判上の全面和解は成立していない。

d　現在、スモン患者に対しては、施術費および医療費の自己負担分の公費負担、生活資金の貸付等の施策が講じられている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問２０

ＨＩＶ訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　悪性貧血患者が、ヒト免疫不全ウイルス（ＨＩＶ）が混入した原料血漿（しょう）から製造された貧血用製剤の投与を受けたことにより、ＨＩＶに感染したことに対する損害賠償訴訟である。

b　国および製薬企業を被告として、大阪地裁、東京地裁で提訴されたが、その後、両地裁で和解が成立した。

c　本訴訟の和解を踏まえ、国は、エイズ治療研究開発センターおよび拠点病院の整備、治療薬の早期提供等の取り組みを推進してきている。

d　本訴訟を踏まえ、医薬品の副作用等による健康被害の再発防止に向けた取り組みの一つとして、製薬企業に対し、感染症報告の義務づけ等を内容とする薬事法の改正が行われた。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

主な医薬品とその作用

問２１

かぜ（かぜ症候群）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　かぜの約８割は、細菌の感染が原因となる。

b　冬場に、発熱や頭痛を伴った悪心・嘔(おう)吐や下痢等の消化器症状が現れる場合、ウイルス性胃腸炎である場合が多い。

c　急激な発熱を伴う場合や、症状が４日以上続くとき、または症状が重篤なときは、かぜではない可能性が高い。

d　発熱、咳(せき)、鼻水などのうち、いずれかの症状がはっきりしている場合には、必ずしもかぜ薬（総合感冒薬）が選択されるのが最適とは限らない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問２２

一般用医薬品のかぜ薬（総合感冒薬）の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　チペピジンヒベンズ酸塩は、気管・気管支を拡げる成分である。

b　エテンザミドは、インフルエンザにかかっている１５歳未満の小児には使用を避ける必要がある。

c　プソイドエフェドリン塩酸塩は、依存性に留意する必要がある。

d　去痰(たん)成分として、グアイフェネシンがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

主な医薬品とその作用

問２３

かぜの症状緩和に用いられる漢方処方製剤に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

a　葛根湯（かっこんとう）は、体力中等度以上のものの感冒の初期（汗をかいていないもの）、鼻かぜ、鼻炎、頭痛、肩こり、筋肉痛、手や肩の痛みに適すとされる。

b　麻黄湯（まおうとう）は、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人では、悪心、胃部不快感、発汗過多、全身脱力感等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

c　小柴胡湯（しょうさいことう）は、体力中等度またはやや虚弱で、うすい水様の痰（たん）を伴う咳（せき）や鼻水が出るものの気管支炎、気管支喘（ぜん）息、鼻炎、感冒、花粉症に適すとされる。

d　桂枝湯（けいしとう）は、マオウを含有するため、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）は使用を避ける必要がある。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｄ）　４（ｃ、ｄ）

問２４

発熱が起こる仕組みおよび解熱鎮痛薬とその配合成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

a　解熱鎮痛薬の効果は、一部の漢方処方製剤を除き、痙攣（けいれん）性の内臓痛には、期待できない。

b　アセトアミノフェンは、解熱鎮痛作用の他に、血液を凝固しにくくさせる作用があるため、医療用医薬品の血栓予防成分としても用いられている。

c　解熱鎮痛薬は、なるべく空腹時を避けて服用することとなっている場合が多く、また、服用期間中は、飲酒は避けることとされている。

d　プロスタグランジンは、脳の下部にある体温を調節する部位（温熱中枢）に作用して、体温を通常よりも下げる方向に調節する。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｄ）　４（ｃ、ｄ）

主な医薬品とその作用

問２５

一般用医薬品において用いられる解熱鎮痛成分（アセトアミノフェンおよび生薬成分を除く。）の副作用に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

a　循環血流量を増加させる作用があるため、心臓の負担を増大させる可能性がある。

b　腎血流量を減少させる作用があるため、腎機能に障害があると、その症状を悪化させる可能性がある。

c　プロスタグランジンの産生を介した胃腸粘膜保護作用があるため、胃粘膜障害は生じにくい。

d　アスピリンは、ピリン系の成分ではないため、薬疹（しん）等のアレルギー症状が生じることはない。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｄ）　４（ｃ、ｄ）

問２６

解熱または鎮痛の目的で用いられる漢方処方製剤および生薬成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　桂枝加朮附湯（けいしかじゅつぶとう）は、体力中等度で、慢性に経過する頭痛、めまい、肩こりなどがあるものの慢性頭痛、神経症、高血圧傾向のあるものに適すとされる。

b　芍薬甘草湯（しゃくやくかんぞうとう）は、筋肉の痙攣（けいれん）や腹痛、腰痛といった症状があるときのみの服用にとどめ、連用は避ける。

c　シャクヤクは古くから「熱さまし」として用いられ、エキスを製剤化した製品には、「感冒時の解熱」の効能・効果がある。

d　生薬成分が解熱または鎮痛をもたらす仕組みは、化学的に合成された成分と異なるものと考えられている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

主な医薬品とその作用

問２７
　眠気を促す薬およびその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　小児や若年者では、抗ヒスタミン成分により眠気とは反対の神経過敏や中枢興奮などが現れることがある。
b　ジフェンヒドラミン塩酸塩は、抗ヒスタミン成分の中でも特に中枢作用が弱い。
c　ブロモバレリル尿素は、脳内におけるヒスタミン刺激を低下させることにより眠気を促す。
d　ブロモバレリル尿素は、反復摂取により依存が生じることが知られているため、乱用に注意が必要である。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

問２８
　一般用医薬品の眠気防止薬とその配合成分のカフェインに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　カフェインが含まれている医薬品、医薬部外品、食品を同時に摂取するとカフェインが過量となり、中枢神経系や循環器系等への作用が強く現れるおそれがある。
b　カフェインは心筋を興奮させる作用もあるが、心臓病のある人でも服用できる。
c　妊娠中に服用した場合、カフェインが胎児の発達に影響を及ぼす可能性がある。
d　カフェインの眠気防止の作用は弱いため、長期反復服用が推奨される。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

主な医薬品とその作用

問２９

乗物酔い防止薬とその成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　乗物酔い防止薬には、吐きけを抑える成分も配合されているため、つわりに伴う吐きけへの対処にも使用される。

b　ジフェニドール塩酸塩は、アセチルコリン様の作用により、排尿困難や緑内障の症状を悪化させるおそれがある。

c　メクリジン塩酸塩は、乗物酔い防止薬に配合される抗ヒスタミン成分である。

d　ジプロフィリンは、消化管の緊張を低下させることにより、乗物酔いに伴う吐きけを抑える。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

問３０

小児の疳（かん）を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）およびその配合生薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

a　柴胡加竜骨牡蛎湯（さいこかりゅうこつぼれいとう）を小児の夜泣きに用いる場合は、症状の原因となる体質の改善を主眼としているため、症状の改善がみられるまで比較的長期間（１ヶ月位）継続して服用する必要がある。

b　カンゾウを含有する漢方処方製剤を乳幼児に使用する場合、体格の個人差から体重当たりのグリチルリチン酸の摂取量が多くなることがあるので注意する必要がある。

c　小建中湯（しょうけんちゅうとう）は、体力中等度をめやすとして幅広く用いることができ、やや消化器が弱く、神経がたかぶり、怒りやすい、イライラなどがあるものの小児虚弱体質、慢性胃腸炎、腹痛、神経質、小児夜尿症、夜なきに適すとされる。

d　ゴオウ、ジャコウは、いずれも動物を基原とする生薬で、緊張や興奮を鎮め、また、血液の循環を促す作用等を期待して配合される。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｄ）　４（ｃ、ｄ）

主な医薬品とその作用

問３１

呼吸器官に作用する一般用医薬品に配合される成分とその配合目的としての作用との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

	配合成分	配合目的としての作用
a	ブロムヘキシン塩酸塩	去痰（たん）
b	デキストロメトルファン臭化水素酸塩	抗炎症
c	クロルフェニラミンマレイン酸塩	抗ヒスタミン
d	トラネキサム酸	鎮咳（がい）

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｄ）　４（ｃ、ｄ）

問３２

口腔（くう）咽喉薬およびうがい薬（含嗽（そう）薬）の一般的な注意事項に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　トローチ剤は、有効成分が口腔（くう）内や咽頭部に行き渡るよう、噛（か）み砕いて飲み込むのがよい。

b　口腔（くう）内に噴射して使用する外用液剤では、息を吸いながら噴射することが望ましい。

c　用時希釈して使用する含嗽（そう）薬は、調製した濃度が濃すぎても薄すぎても効果が十分得られない。

d　一般用医薬品の口腔（くう）咽喉薬は、局所的な作用を目的とする医薬品であり、全身的な影響を生じることはない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

主な医薬品とその作用

問３３

鎮咳（がい）または去痰（たん）作用を示す生薬成分の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　キョウニン
b　バクモンドウ
c　センブリ
d　オウバク

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問３４

胃に作用する薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

a　制酸成分を主体とする胃腸薬は、炭酸飲料での服用で胃酸に対する中和作用が向上する。
b　ロートエキスは、ノルアドレナリンの働きを抑え、過剰な胃液の分泌を抑える。
c　テプレノンは、荒れた胃粘膜の修復を促す等の作用を期待して用いられる。
d　制酸成分のうちアルミニウムを含む成分については、長期連用を避ける必要がある。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｄ）　４（ｃ、ｄ）

主な医薬品とその作用

問３５

止瀉(しゃ)薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　収斂(れん)成分を主体とする止瀉(しゃ)薬は、腸の運動を鎮める作用があり、細菌性の下痢や食中毒のときの下痢症状を鎮めるのに適している。

b　タンニン酸アルブミン配合の止瀉(しゃ)薬は、牛乳にアレルギーがある人では使用を避ける必要がある。

c　ロペラミド塩酸塩配合の止瀉(しゃ)薬は、２～３日間使用しても症状の改善がみられない場合には、医師の診療を受けるなどの対応が必要である。

d　抗菌作用を持つベルベリン配合の止瀉(しゃ)薬は、細菌感染による下痢の症状を鎮めることを目的に用いられる場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問３６

次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力中等度以下で、胃腸が弱く、食欲がなく、みぞおちがつかえて疲れやすく、貧血症で手足が冷えやすいものの胃炎、胃腸虚弱、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔(おう)吐に適すとされる。まれに重篤な副作用として、肝機能障害を生じることが知られている。

1　安中散(あんちゅうさん)
2　麻子仁丸(ましにんがん)
3　人参湯(にんじんとう)
4　六君子湯(りっくんしとう)
5　大黄甘草湯(だいおうかんぞうとう)

主な医薬品とその作用

問３７

瀉(しゃ)下薬を販売する際の対応に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　マグネシウムを含む瀉(しゃ)下薬を販売する際、腎臓病の診断を受けていないか、購入者に確認した。
b　妊娠している可能性がある人に対し、ヒマシ油が主成分である日本薬局方収載の加香ヒマシ油を販売した。
c　センノシドを含む瀉(しゃ)下薬の服用中は、授乳を避ける必要があるため、授乳中でないか確認した。
d　ビサコジルの腸溶性製剤を販売する際、服用前後１時間以内は、牛乳や制酸成分を含む胃腸薬を飲まないよう説明した。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問３８

胃腸鎮痛鎮痙(けい)薬に配合される成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　ブチルスコポラミン臭化物は、服用した後には、乗物または機械類の運転操作を避ける必要がある。
b　パパベリン塩酸塩は、自律神経系を介した作用ではないが、眼圧を上昇させる作用を示すことが知られている。
c　アミノ安息香酸エチルは、メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため、６歳未満の小児への使用は避ける。
d　オキセサゼインは、局所麻酔作用により鎮痛効果を示すが、胃液分泌を抑える作用はない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

主な医薬品とその作用

問３９

浣(かん)腸薬およびその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　浣(かん)腸薬は、薬への直腸の感受性を高めるため、繰り返しの使用が望ましいとされている。

b　腹痛が著しい場合や便秘に伴って吐きけや嘔(おう)吐が現れた場合には、急性腹症の可能性があり、浣(かん)腸薬の配合成分の刺激によってその症状を悪化させるおそれがある。

c　坐(ざ)剤に配合される炭酸水素ナトリウムは、浸透圧の差によって腸管壁から水分を取り込んで、直腸粘膜を刺激し排便を促す効果がある。

d　グリセリンが配合された浣(かん)腸薬を使用すると、排便時に立ちくらみの症状が現れることがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

主な医薬品とその作用

問４０

コレステロールおよび高コレステロール改善薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　コレステロールは、血液中では血漿（しょう）タンパク質と結合したリポタンパク質となって存在する。

b　高密度リポタンパク質（ＨＤＬ）は、コレステロールを肝臓から末梢組織へと運ぶ役割を担う。

c　医療機関で測定する検査値として、低密度リポタンパク質（ＬＤＬ）が１４０ｍｇ/ｄＬ以上、高密度リポタンパク質（ＨＤＬ）が４０ｍｇ/ｄＬ未満、中性脂肪が１５０ｍｇ/ｄＬ以上のすべてにあてはまる状態が、脂質異常症とされる基準である。

d　ビタミンＥ（トコフェロール酢酸エステル）は、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、痺（しび）れ）の緩和等を目的として配合される。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

主な医薬品とその作用

問４１

一般用医薬品の三黄瀉心湯（さんおうしゃしんとう）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　体力中等度以上で、のぼせ気味で顔面紅潮し、精神不安、みぞおちのつかえ、便秘傾向などのあるものの高血圧の随伴症状（のぼせ、肩こり、耳なり、頭重、不眠、不安）、鼻血、痔（じ）出血、便秘、更年期障害、血の道症に適すとされる。

b　構成生薬としてダイオウを含む。

c　体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）では、激しい腹痛を伴う便秘の副作用が現れやすいとされる。

d　鼻血の適応に対して用いる場合には、症状の改善がみられるまで、比較的長期間（１ヶ月位）服用が必要である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

主な医薬品とその作用

問４２

次の表は、一般用医薬品の外用痔疾用薬の注入軟膏に含まれている成分の一覧である。

１個（２ｇ）中

成分	分量
リドカイン	６０　ｍｇ
プレドニゾロン酢酸エステル	１　ｍｇ
トコフェロール酢酸エステル	５０　ｍｇ
アラントイン	２０　ｍｇ

これらの成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　局所の感染を防止することを目的として、殺菌消毒成分が配合されている。

ｂ　配合されている抗炎症成分は、含有量が少ないため、長く使用し続けることができる。

ｃ　痒みを抑える効果を期待して、局所に冷感刺激を生じさせる成分が配合されている。

ｄ　肛門部の創傷の治癒を促す効果を期待して組織修復成分が配合されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

主な医薬品とその作用

問４３

月経不順、月経困難や月経困難症に適すとされる漢方処方製剤の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　桃核承気湯（とうかくじょうきとう）
b　桂枝加芍薬湯（けいしかしゃくやくとう）
c　加味逍遙散（かみしょうようさん）
d　当帰飲子（とうきいんし）

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

主な医薬品とその作用

問４４

次の成分を含む鼻炎用内服薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

２錠中

成分	分量
プソイドエフェドリン塩酸塩	４０　ｍｇ
ｄｌ－メチルエフェドリン塩酸塩	１０　ｍｇ
ｄ－クロルフェニラミンマレイン酸塩	２　ｍｇ
グリチルリチン酸二カリウム	１５　ｍｇ
ベラドンナ総アルカロイド	０．２　ｍｇ
無水カフェイン	２５　ｍｇ

a　眠気が促される成分は配合されていない。

b　目のかすみ、異常なまぶしさ等の症状が現れるおそれがある成分が配合されている。

c　排尿困難が現れることがある成分が配合されている。

d　医療機関でセレギリン塩酸塩等のモノアミン酸化酵素阻害剤が処方されて治療を受けている人は、使用を避ける必要がある成分が配合されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

主な医薬品とその作用

問４５

一般用医薬品のスプレー式鼻炎用点鼻薬に関する、一般的な注意事項の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　噴霧の際、使用前に鼻をよくかんでおく。
b　清潔に保つため、薬液が入った容器は、必ずキャップを閉めた状態で保存する。
c　噴霧時に薬液が鼻汁とともに逆流しないよう、容器の先端を鼻腔(くう)内に押し付けて使用する。
d　同じ症状の人と共有して使用することは、差し支えない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

問４６

眼科用薬に関する記述について、正しいものはどれか。

1　眼科用薬は、網膜の内側と眼球の間の空間に適用する外用薬である。
2　コンタクトレンズ装着液は、あらかじめ定められた範囲内の配合成分のみを含む等の基準に当てはまる製品については、医薬部外品として認められている。
3　人工涙液は、涙液中の抗菌作用を補うことを目的とするもので、コンタクトレンズ装着時の不快感等に用いられる。
4　点眼薬は、一般に、１滴の薬液量が少なめに調製されているため、一度に数滴点眼する方が効果が増す。
5　薬液を行き渡らせるため、点眼直後に、まばたきを数回行うと効果的とされる。

主な医薬品とその作用

問４７

ものもらい（麦粒腫）の症状を改善するために、スルファメトキサゾール含有の点眼薬を購入したいという顧客に対し、登録販売者が行う説明として、正しいものの組み合わせはどれか。

a　この点眼薬には、抗菌作用があるサルファ剤という薬が配合されています。
b　この点眼薬は、すべての細菌に対して効果があるわけではありません。
c　この点眼薬は、ウイルスには効果がありませんが、真菌には有効な薬です。
d　２０日ほど使用しても症状が改善しない場合は、眼科専門医の診療を受けてください。

１（a、b）　２（a、c）　３（b、d）　４（c、d）

問４８

皮膚に用いる薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

a　外皮用薬は、表皮の角質層が柔らかくなることで有効成分が浸透しやすくなることから、入浴後に用いるのが効果的とされる。
b　外皮用薬の適用部位に現れる発疹（しん）・発赤、痒（かゆ）み等の局所性の副作用は、外皮用薬が適応とする症状と区別することが難しい場合がある。
c　一般用医薬品のオキシドール（過酸化水素水）は、真菌に対する殺菌消毒作用を示す。
d　スプレー剤やエアゾール剤は、患部に対して至近距離から、同じ部位に連続して５秒以上噴霧することが望ましい。

１（a、b）　２（a、c）　３（b、d）　４（c、d）

主な医薬品とその作用

問４９

一般的な創傷への対応に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　火傷（熱傷）の場合は、水疱（水ぶくれ）が破れると、そこから感染を起こして、化膿することがあるため、冷やした後は、水疱を破らないようにする。

b　創傷部への殺菌消毒薬の繰り返しの使用は、皮膚常在菌を殺菌したり、殺菌消毒成分により組織修復が妨げられることで、治癒が遅れることがある。

c　最近では、創傷面に浸出してきた液の中に表皮再生の元になる細胞を活性化させる成分が含まれているため、乾燥させない方が早く治癒するという考えも広まってきている。

d　出血しているときは、創傷部に清潔なガーゼやハンカチ等を当てて、創傷部を心臓より高くして圧迫すると止血効果が高い。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

主な医薬品とその作用

問５０

外皮用薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　インドメタシンは、肥満細胞から遊離したヒスタミンとその受容体タンパク質との結合を妨げる。

b　ノニル酸ワニリルアミドは、皮膚表面に冷感刺激を与え、軽い炎症を起こして反射的な血管の拡張による患部の血行を促す効果を期待して用いられる。

c　酸化亜鉛は、患部のタンパク質と結合して皮膜を形成し、皮膚を保護する作用を示す。

d　ヘパリン類似物質は、創傷面に浸透して、その部位を通っている血管を収縮させることによる止血効果を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

主な医薬品とその作用

問５１

毛髪用薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　カルプロニウム塩化物は、頭皮における抗菌、抗炎症作用を期待して用いられる。
b　エストラジオール安息香酸エステル配合の毛髪用薬は、局所的に作用するため、妊婦または妊娠していると思われる女性でも、医薬品の販売等に従事する専門家に相談することなく使用することができる。
c　カシュウは、頭皮における脂質代謝を高めて、余分な皮脂を取り除く作用を期待して用いられる。
d　チクセツニンジンは、頭皮の血行促進、抗炎症などの作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問５２

歯槽膿(のう)漏薬の配合成分とその配合目的としての作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	配合成分	配合目的としての作用
a	グリチルリチン酸二カリウム	歯肉溝での細菌の繁殖を抑える
b	カルバゾクロム	歯周組織の血行を促す
c	フィトナジオン（ビタミンＫ１）	歯周組織からの出血を抑える
d	銅クロロフィリンナトリウム	歯周組織の修復を促す

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

主な医薬品とその作用

問５３

一般用医薬品の禁煙補助剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　ニコチン置換療法は、喫煙しながら禁煙補助剤を使用し、段階的に喫煙量を減らして、最終的に禁煙に導く方法である。

b　禁煙補助剤には、咀嚼剤とパッチ製剤があり、ニコチンが口腔粘膜から吸収または皮膚を透過して血中に移行する。

c　咀嚼剤は、ゆっくりと断続的に噛むこととされているが、噛みすぎて唾液が出過ぎたときは、飲み込まずにティッシュ等に吐き出すとよい。

d　ニコチンは、インスリンの血糖降下作用に拮抗して、効果を妨げるおそれがあるため、インスリン製剤を使用している人は使用前に医師等に相談する必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問５４

滋養強壮保健薬およびそれに配合される生薬成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　インヨウカクは、強壮、血行促進、強精等の作用を期待して用いられる。

b　タイソウは、主に強壮作用を期待して配合されている場合がある。

c　数種類の生薬をアルコールで抽出した薬用酒は、手術や出産の直後等の滋養強壮を目的として用いられる。

d　ヨクイニンは、肌荒れやいぼに用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

主な医薬品とその作用

問５５

滋養強壮保健薬とその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　システインは、下垂体や副腎系に作用し、ホルモン分泌の調節に関与するとされ、主薬製剤の服用後、ときに生理（月経）が早く来たり、経血量が多くなったりする。

b　ガンマーオリザノールは、妊娠３ヶ月以内の妊婦、妊娠していると思われる女性および妊娠を希望する女性では、新生児の先天異常の割合が上昇したとの報告があるため、過剰摂取に留意する必要がある。

c　十全大補湯（じゅうぜんたいほとう）は、胃腸の弱い人では、胃部不快感の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

d　補中益気湯（ほちゅうえっきとう）は、まれではあるが、重篤な副作用として間質性肺炎や肝機能障害が生じることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問５６

漢方の特徴、漢方薬使用時における基本的な考え方に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　漢方処方製剤は、用法用量において特に適用年齢に定めがない場合は、乳児であっても月齢に関係なく使用できる。

b　漢方薬は、現代中国で利用されている中医学に基づく中薬とは、考え方等が異なっている。

c　漢方処方は、処方全体としての適用性等、その性質からみて処方自体が一つの有効成分として独立したものという見方をすべきものである。

d　漢方処方製剤は、患者の「証」に合わないものが選択された場合、副作用を招きやすくなる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

主な医薬品とその作用

問５７

肥満症または肥胖(はん)症に用いられる漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　防己黄耆湯(ぼういおうぎとう)は、体力が充実して脇腹からみぞおちあたりにかけて苦しく、便秘の傾向があるものの肥満症に適すとされる。

b　防風通聖散(ぼうふうつうしょうさん)は、体力充実して、腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちなものの高血圧や肥満症に適すとされる。

c　大柴胡湯(だいさいことう)は、体力中等度以下で、疲れやすく、汗のかきやすい傾向があるものの肥満に適すとされる。

d　防己黄耆湯(ぼういおうぎとう)および防風通聖散(ぼうふうつうしょうさん)は、いずれも構成生薬としてカンゾウを含まない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

主な医薬品とその作用

問５８

消毒薬とその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　器具等の殺菌・消毒を目的とする消毒薬は、配合成分やその濃度等があらかじめ定められた範囲内であれば、医薬部外品として流通することが認められている。

b　イソプロパノールは、エタノールよりも粘膜刺激性が低いため、粘膜面や傷がある皮膚の殺菌・消毒によく用いられる。

c　有機塩素系殺菌消毒成分は、塩素臭や刺激性、金属腐食性が比較的抑えられており、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられることが多い。

d　アルカリ性の消毒薬が誤って皮膚に付着した場合には、水洗するよりも、できるだけ早く酸で中和することが重要である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問５９

殺虫剤・忌避剤およびその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　殺虫剤や忌避剤の中には、原液を用時希釈して用いる等、取扱い上、人体に対する作用が緩和とはいえない製品がある。

b　燻(くん)蒸にてゴキブリの駆除を行う場合、卵は殺虫剤成分が浸透しない殻で覆われているため、孵(ふ)化後にもう一度燻(くん)蒸処理を行う必要がある。

c　メトプレンは、幼若ホルモンに類似した作用を有するため、ダニの駆除に用いられる。

d　フェニトロチオンは、シラミの駆除を目的とする場合は、人体に直接適用されるものである。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

主な医薬品とその作用

問６０

一般用検査薬およびその販売に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　一般の生活者が、自らの健康状態を把握し、医療機関の受診につなげていくためのもので、悪性腫瘍の診断に関するものも販売されている。

b　薬局または薬局を併設する店舗販売業においてのみ、取り扱うことが認められている。

c　検査に用いる検体として認められるのは、尿や糞便のように、侵襲なく採取できるものである。

d　販売する際、適切な情報提供が求められる事項の一つとして、検査結果に影響を及ぼす物質の説明がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正